

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・基礎・基本が定着し自律的な学びの学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	自ら学ぶ力を育てる授業づくり 選択肢と自己決定学習者用情報端末の活用による授業改善	・選択肢と自己決定のある授業作り(個別最適な学び) ・学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり ・学習者用情報端末活用による積極的な授業改善	①学力定着確認テストの正答率 ②QUの結果をもとに、学級指導を行う。 ③担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①偏差値昨年度比+1 ②每学期1回以上 ③各学期1回以上	①0% ②全体研修を実施 ③1回以上実施	①0% ②100% ③100%	①D ②A ③A	①5教科とも昨年度より下がっていた。無回答を減らしていく必要がある。 ②各学年、全体で研修を行い、情報共有と具体的にどのようにかかわるかにについて話し合い、生徒に対応をすることができた。 ③各教科、各学級の活動の様々な場面でクロームブックを中心にICTを活用した。	①アシストシートを活用したり生徒が自分で選んで学ぶ場を増やしていく。 ②生徒の情報共有を行い、教員間で連携を取って生徒との関わりを作り、集団づくりを行う。12月実施するQUの結果を踏まえ、具体的な方針を決定する。 ③生徒の学習がより効果的になるICTの活用を、教員どうしで使用例を共有しながら進めていく。	○			・小さい頃から「やりたい」「やってみたい」という気持ちを育てていく環境づくりの必要性を改めて感じています。 ・自由進度学習の充実へ期待します。
			①フォロータイムの工夫	①学期に1回以上の参加	①100%	①100%	①A	実施計画を立て、呼びかけを行うことで、効果的に時間を使うことができた。クロームブックを活用し、生徒が自分で学習する姿も見られた。	内容の検討を行い、生徒のつまづきに合わせた復習を行う時間になるように工夫していく。	○			・フォロータイムの工夫に期待します。	
	家庭学習の見直し	・学び方指導の充実 ・「自主学習ノート」の指導と向上 ・家庭学習の習慣化	①生徒一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②生徒の自主学習の紹介	①実施した100% ②学期に1回以上の実施	①100% ②66%	①100% ②66%	①A ②C	①各授業で実態の異なる生徒に対して、それぞれ必要な支援、手だてを行った。授業をもとに自主学習ノートで復習に取り込む生徒も多かった。 ②3クラスのうち、2つのクラスでは紹介・交流を行うことができ、その後の自主学習につながる生徒の姿が見られた。	①授業中の学び方の指導に加えて、課題の選択肢も各教科で増やす。 ②各クラスのHRや行事で自主学習の交流に取り組んでいく。委員会の取り組みと関連付けて取り組みを進める。	○			・自主学習ノートがさらに充実することを期待しています。	
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	自己指導能力の向上 不登校未然防止 地域貢献意識の向上	・生徒指導の三機能を生かした指導と生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ・SSRの活用、相談体制の充実 ・自主参加による地域ボランティア活動の充実	①生徒指導に係る評価アンケートを全学年で実施する。 ②学校行事への生徒満足度。 ③地域ボランティア活動への参加回数。	①肯定的評価80%以上 ②肯定的回答90%以上 ③平均1回以上	①92.4% ②97.8% ③51.9%	①100% ②100% ③51.9%	①A ②A ③C	①「自分は周りの人から認められています」の質問に対する否定的回答が10%を超えている。 ②体育祭の運営に関して中学生が主として取り組むことで充実感を得た生徒が多かった。 ③中止や参加自粛により参加が難しい中で参加している生徒が昨年度より増えた。	①学級活動や学校行事等で活躍できる場を設け、自己有用感を高めていく。 ②学校行事を通して、リーダーシップや自己肯定感が高まるように役割を持たせ、やり切ることができるよう支援を行う。 ③活動の中止や参加自粛により活躍や貢献の機会が減っている。ボランティア部を中心に学校内に呼びかけを行う。	○			・自己肯定感が高まるような行事の工夫を期待します。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進	・9カ年を見通した体力づくりのカリキュラムに基づく体育科授業の工夫改善 ・部活動の練習方法の工夫(個人目標・チーム目標による生徒満足度の向上)	①「体力・運動能力調査」で全国平均以上の種目の割合	①50%以上	①14.5%	①29%	①C	①「反復横跳び」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」の種目に関して、全学年男女ともに全国平均を下回っていた。	①保健体育の授業において、単元に即した補強運動を取り入れていく。それに加えて、クロームブック等を活用して自分の動きを振り返る活動を取り入れていく。	○			・生活の中で、体力づくりができる機会が少なくなっているため、意図的計画的な体力づくりが必要だと思われます。
			・「金のルール」「食育」「久井中ノート提出」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上)	①生活アンケートで、「自分の食事について、栄養バランスなどを意識して食事を食べるよう心がけている」に対して、肯定的割合	①80%以上	①92.4%	①100%	①A	①保健委員により、給食ニュースを毎日読んで啓発している。クロームブックを活用して家庭科の授業やお弁当の日の取り組みを行っている。保健室来室時には、生活習慣について個別指導を行っている。	①保健や家庭科の授業での意識づけを行っている。講師を招いてのお弁当の日の実施を予定している。	○			・お弁当の日の更なる充実へ期待しています。
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信	・各たよりの発行 ・HPの積極的な更新 ・園小中高連携 ・保護者の学校教育満足度	①各たよりの発行(月1回以上) ②HPの更新(月1回以上) ③園小中高の交流回数(年4回以上) ④保護者の学校教育満足度	①100% ②100% ③100% ④80%	①100% ②100% ③50% ④92%	①100% ②100% ③50% ④100%	①A ②A ③D ④A	①学校だよりは月1回発行できた。 ②HPの更新も月1回更新できた。 ③小中連携校として、交流を密に行うことができたが、コロナ禍もあり、園、高との連携を行うことができなかった。 ④クラスルームや「すぐー」を活用した学校・学級だよりの送信を行うことができた。	コロナ禍の中、感染防止対策を行いながら、進路実現にむけて高等学校としっかりと連携を重ねていく。また、久井認定こども園との連携も進めていき、児童生徒、保護者理解に努めていく。	○			・園小中高の連携に期待しています。
			・サービス研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする組織的な学校運営	①サービス研修(接遇研修を含む。)毎月1回以上 ②小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100%	①100% ②100%	①100% ②100%	①A ②A	①サービス研修を月1回以上行うことができた。 ②小中合同の学校経営会議を月1回開催し、小中連携校として学校行事等の打ち合わせを行い、スムーズな学校運営をすることができた。	月1回のサービス研修以外に、職員朝会で個人情報についての扱いや机上整理の呼びかけを行う。また、月1回の整理整頓日の徹底を図ることで、不祥事防止の意識を高める。	○			・サービス研修の更なる充実へ期待しています。
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり 教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	・上限目安時間の管理(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①60%	①60%	①C	教職員16名の4月から9月末までの在校時間45時間以上の割合が40%であった。定期試験問題作成や成績処理等の業務がある月は在校時間が増えるため、年間を通して、見直しをもって業務を行うことが課題である。	・月1回の準衛生委員会を確実に実施し、時間を意識した業務を呼びかける。 ・超過勤務の現状をペーパーで示し、現状把握と働き方を考える指標とする。	○			・主体的な学びを深めるためには、先生方の準備や工夫も必要かと思えます。毎日本当にお疲れ様です。 ・教育活動の充実と働き方改革の推進は難しい問題だと思いますが、引き続き取り組んでください。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【i:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。